

さ か づ

酒

津遺跡現地説明会資料

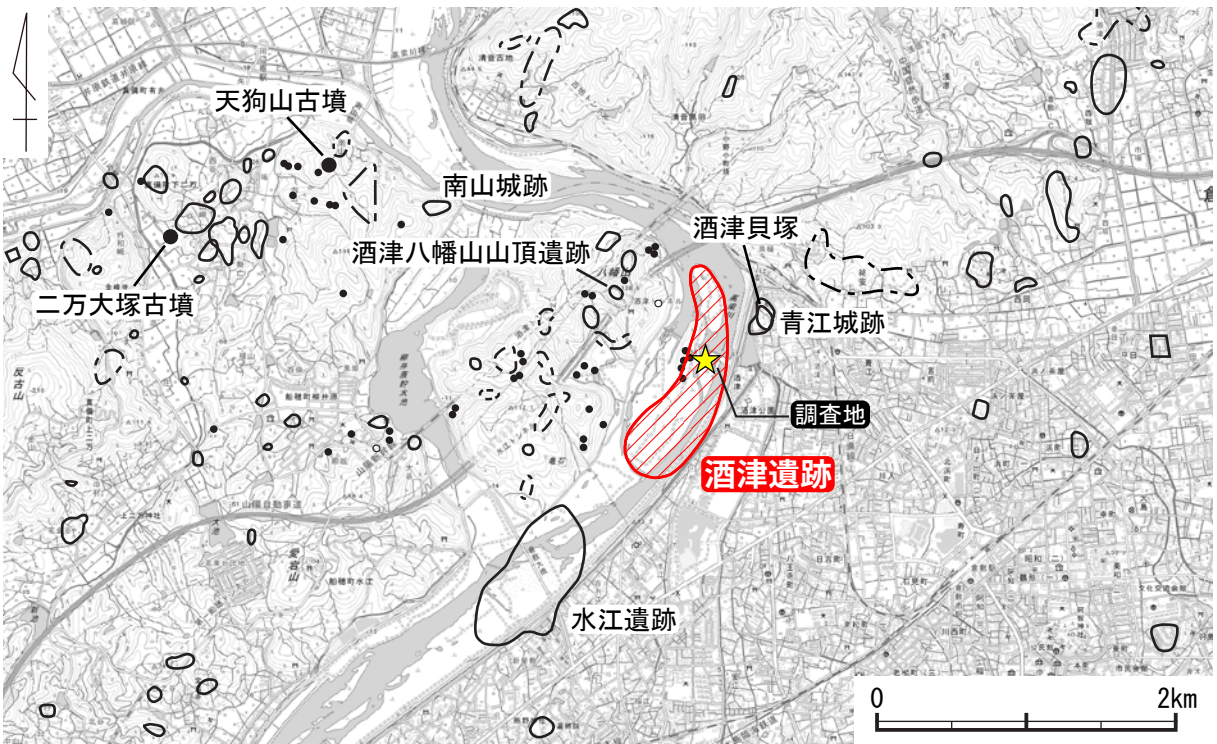
日 程：令和7年12月13・14日（土・日）主 催：岡山県古代吉備文化財センター
場 所：倉敷市酒津地先 酒津遺跡発掘調査現場

岡山県古代吉備文化財センターでは、高梁川河川整備事業に伴い令和4年度から酒津遺跡の発掘調査を行っています。

酒津遺跡は、倉敷市街地の北西にある酒津八幡山の麓に位置します。かつての高梁川は、八幡山の北側で東西に分かれており、東高梁川と八幡山の間に本遺跡が立地していました。しかし、明治時代になると高梁川下流域で氾濫が多発したため、川の流れを1本にする改修工事が行われました。工事の結果、遺跡の大部分が河川敷となり、現在に至ります。

酒津遺跡は昭和30(1955)年に発見されて以来、川の底から多数の遺物が見つかることで広く知られるようになりました。中でも、弥生時代後期末の土器は「酒津式土器」と名付けられ、備中南部の同時期を代表する土器として学術的にも有名です。

令和5年度からは笠井堰の南に位置する中州の北側を調査しており、これまでに縄文時代から江戸時代にかけての遺構や遺物が見つかり、断片的に知られていた酒津遺跡の実態が明らかになりつつあります。



第1図 酒津遺跡と周辺の主な遺跡（1/50,000）（国土地理院電子地形図を加工）

〈関連年表〉

	全国のできごと	周辺のできごと	周辺の遺跡・文化財
旧石器	・氷河期、日本列島と大陸が陸続き	・人の生活の痕跡が見られるようになる	・ ^{わしゅうざん} 鷲羽山遺跡（倉敷市）
16,000年前			
縄文	・氷河期が終わり、暖かくなる ・土器づくりが始まる	・高梁川の沖積平野縁辺に貝塚がつくられる	・ ^{さとぎ} 里木貝塚（倉敷市） ・ ^{なかつ} 中津貝塚（倉敷市） ・ ^{つくも} 津雲貝塚（笠岡市）
2,800年前			
弥生	・米づくりが始まる ・金属器が伝わる ・ ^{ひみこぎ} 卑弥呼が魏に使いを送る（239）	・ ^{あしもりかわ} 足守川流域で大規模な集落が営まれる ・足守川流域、真備地域で墳丘墓がつくられる	・ ^{さかつ} 酒津貝塚（倉敷市） ・ ^{じょうどう} 上東遺跡（倉敷市） ・ ^{たてつき} 楯築墳丘墓（倉敷市） ・ ^{みややま} 宮山墳丘墓（総社市）
1,750年前			
古墳	・ ^{ぜんぽうこうえんふん} 前方後円墳がつくられはじめる ・ ^{わごおう} 倭の五王の時代 ・仏教が伝わる（538）	・ ^{きび} 吉備で巨大前方後円墳がつくられる ・八幡山周辺で古墳群がつくられる	・ ^{つくりやま} 造山古墳（岡山市） ・ ^{つくりやま} 作山古墳（総社市） ・ ^{てんぐやま} 天狗山古墳（倉敷市） ・ ^{にまおつか} 二万大塚古墳（倉敷市）
1,300年前			
奈良	・ ^{へいじょうきょう} 平城京に都が移る（710） ・ ^{こくぶんじこうりゅう} 国分寺建立の詔（741） ・ ^{きびのみきび} 吉備真備が活躍する ・ ^{どうだいじ} 東大寺の大仏完成（752）	・ ^{おだかわ} 小田川沿いに古代山陽道が整備される	・ ^{びつちゅうこくぶんじ} 備中国分寺跡（総社市） ・ ^{びつちゅうこくぶんじ} 備中国分尼寺跡（総社市）
1,200年前			
平安	・ ^{へいあんきょう} 平安京に都が移る（794） ・ ^{いんせい} 院政の開始（1086） ・ ^{げんべい} 源平の争乱（1180～1185）	・酒津八幡神社創建（947） ・ ^{みずしまふじと} 水島・藤戸合戦（1184）	・ ^{あんようじうらやまきようづかぐん} 安養寺裏山経塚群（倉敷市）
800年前			
鎌倉	・ ^{みなもりのとも} 源頼朝が征夷大將軍になる（1192） ・ ^{もうこ} 蒙古襲来（1274、1281）	・ ^{たましまかめやまやき} 玉島で亀山焼がつくれ始める ・ ^{いっぺん} 一遍上人が輕部宿を訪れる（1287）	・ ^{かめやま} 亀山遺跡（倉敷市） ・ ^{どうおうじほうきょういんどう} 堂応寺宝篋印塔（倉敷市）
700年前			
室町	・ ^{あしかがたかうじ} 足利尊氏が幕府を開く（1338） ・ ^{おうにん} 応仁の乱（1467～1477） ・ ^{ほんのうじ} 本能寺の変（1582）	・ ^{びつちゅうたかまつ} 備中高松城水攻め（1582） ・高梁川で高瀬舟を用いた水運が始まる（16世紀末）	・ ^{やなばやま} 梁場山城跡（倉敷市） ・ ^{あおえ} 青江城跡（倉敷市） ・ ^{みなみやま} 南山城跡（倉敷市）
400年前			
江戸	・ ^{とくがわいえやす} 徳川家康が幕府を開く（1603） ・ ^{たいせいほうかん} 大政奉還（1867）	・ ^{ふなお} 船穂・玉島間で「高瀬通し」が開通する（17世紀後半） ・ ^{かんな} 鉄穴流しによる高梁川の水質汚染が問題となる	・一の口水門（倉敷市） ・ ^{おかだはんじんや} 岡田藩陣屋跡（倉敷市）
150年前			
明治～現代	・明治維新政府の樹立（1868） ・第一次世界大戦始まる（1914） ・第二次世界大戦始まる（1939）	・高梁川の河川改修工事が完了、現在の流れになる（1925）	・ ^{どうざいようすいしゅはいすい} 高梁川東西用水取配水施設（倉敷市）

※資料の転載・引用はご遠慮ください。

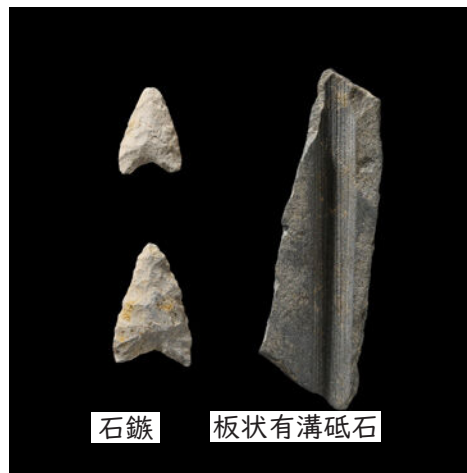
岡山県古代吉備文化財センター

〒701-0136 岡山市北区西花尻1325-3

TEL 086-293-3211 FAX 086-293-0142

<https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/>





石器や剥片

縄文時代草創期（約 15000 年前）

3～5区から出土した石器によって、酒津遺跡が縄文時代草創期まで遡ることが明らかになりました。板状有溝砥石をはじめ多くの剥片や石鏃が出土しています。



掘立柱建物

鎌倉時代～

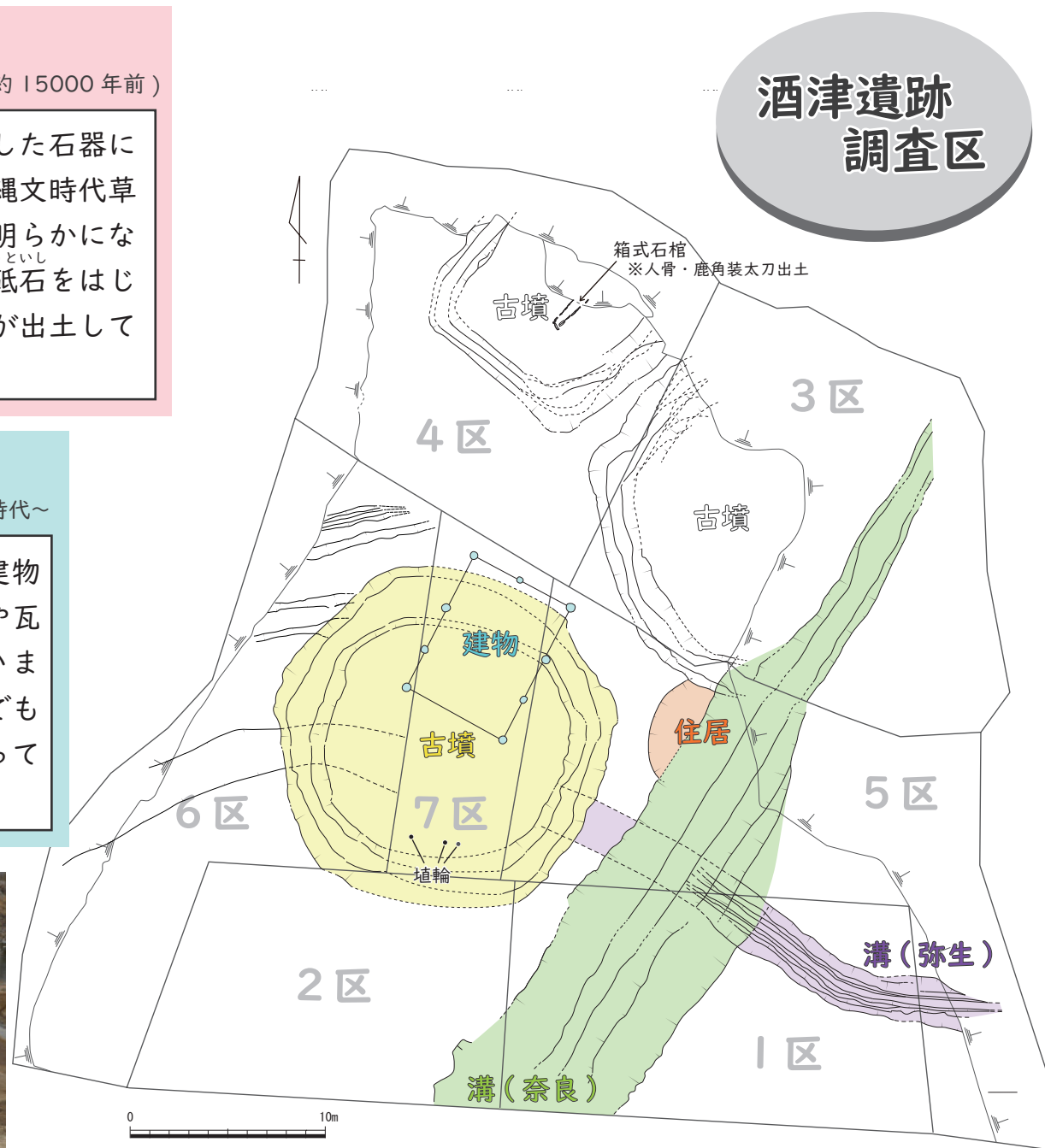
7.5 m × 5.5 m の建物で、柱穴からは土器や瓦の破片が出土しています。これまでの調査でも同様の建物が見つかりました。



周溝をもつ古墳

古墳時代中期（約 1550 年前）

これまでに5世紀後半（約 1550 年前）頃の古墳が複数見つかりました。いずれも 10 m 程度の大きさの円墳や方墳で、周溝がほぼ接するほど群集しています。調査地北端の方墳には箱式石棺が残っており、人骨や鹿角装大刀などの副葬品が出土しました。その南東の円墳では円筒埴輪が墳丘や周溝の中で見つかりました。



第2図 酒津遺跡の主な遺構（1/300）



南北にのびる大溝

奈良時代（約 1300 年前）

北東から南西方向へ直線的に掘られた大溝です。幅約 7 m、深さ約 2 m とかなり大規模なもので、長さも 40 m 以上見つかりました。溝の中からは土師器、須恵器、瓦などが見つかりました。



焼失した竪穴住居

弥生時代中期（約 2150 年前）

平面円形の弥生時代中期の竪穴住居です。大部分が奈良時代の溝で壊されていますが、径 7 m と復元できます。住居内には炭化した建築部材や焼けた土が残り、火を受けて廃棄されたことがわかります。木材は住居の中心に向かって倒れており、屋根材が放射状に立てかけられていたと想定できます。本発掘調査で初めて弥生時代の住居が見つかり、集落像解明の糸口となることが期待されます。



東西にのびる溝

弥生時代中期（約 2100 年前）

調査区を東西に通る、幅約 2 m、深さ最大 80 cm の弥生時代中期の溝です。さらに西へ延びると想定されます。集落の区画用か用水用の溝の可能性が考えられます。